

20世紀の科学技術とセキュリティ

1. 技術の開発

武器、医療、エネルギー、輸送、通信、情報

2. 社会的影響 (Social Impacts)

人命、社会混乱、人権侵害、不安と恐怖

(これらは、「技術」以外の要素でも生じる)

3. 社会的対応

法律、経済制度、行政、教育、革命

これらが、1 2 3または、1 3 2(予防)の
順序で生ずる。ただし、つねに 1 が最初。

なぜそれでよかったか？

- 技術の成果の波及に時間がかかる
 - 10年単位
- 技術が安定し、枯れる余裕がある
 - 例：新幹線、旅客航空機、電話
- 誰が作り、誰が運用するかが「見える」
 - 専門家、「事業法」
- 民主主義的、市場的手法で間に合う（「国」が存在）
- 技術開発の没価値性、脱価値性
- 個人のセキュリティと団体のセキュリティの予定調和

21世紀の科学技術とセキュリティ

- 20世紀的条件の崩壊
 - 急速な技術の進展と更新
 - 社会運営における匿名性の増大
- 何にとっても安全・安心の不明解さ
 - トレードオフ、比較衡量の必要性
 - パースペクティブによる意見の相違
 - 多重的な社会帰属

例：延命技術、生殖技術、私人間の通信秘匿、
データマイニングなどなど

価値重視の技術開発

- 技術開発の没価値性を断念
 - どのような価値のために何を知るか、作るか
- 価値に関するオープンな議論
 - 価値はつねにパースペクティブ
- 社会的波及効果に関する事前予想とそれに基づく抑制
- 社会的に統合する手法の同時開発
 - 使われる技術を予想する技術
 - 技術の使い方に関する技術